

【軟式野球】

1 参加規程

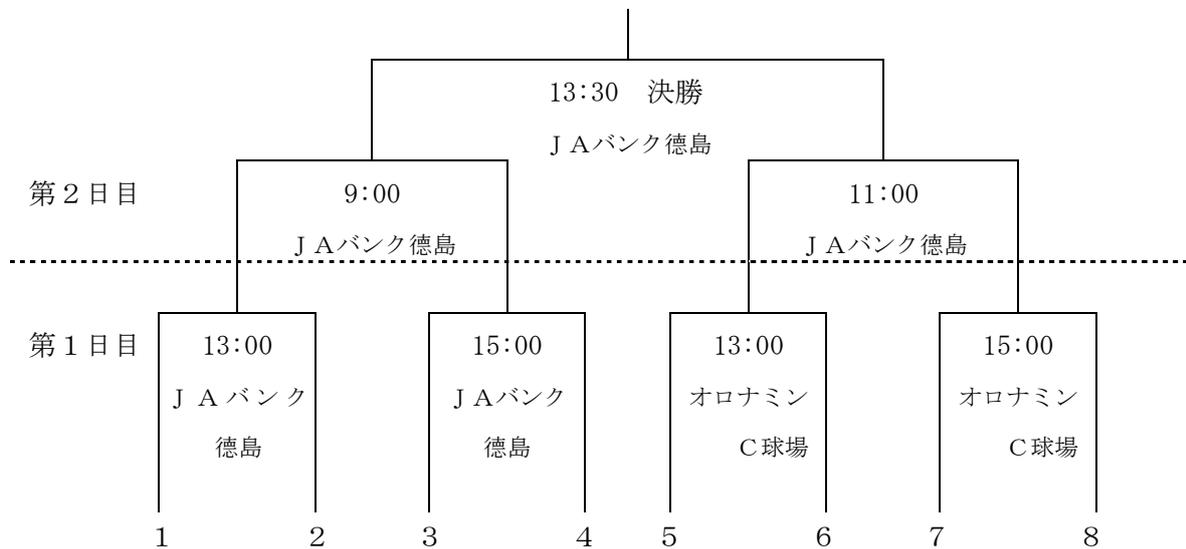
- (1) 各県2チームとする。
- (2) 1チームの編成は、監督（引率責任者）1名、選手18名以内（スコアラーを含む）とする。他に教員を2名追加することができる。但し外部コーチが入る場合は、1名とし、計21名以内とする。なお、監督は背番号30をつけるものとする。

2 競技規則

- (1) 当該年公認野球規則及び大会特別規定による。
- (2) 大会特別規定は、別に定める。
- (3) 使用球は、(公財)全日本軟式野球連盟公認B球とする。
- (4) バットは、(公財)全日本軟式野球連盟公認バットを使用する。

3 競技方法

- (1) 全試合トーナメント方式とし、各試合7回戦とする。
- (2) 得点差によるコールドゲームは適用しない。
- (3) 延長戦は全試合9回までとし、それでも勝敗が決しない場合は特別延長戦を行う。
- (4) 背番号1～18とし、原則としてポジション別とする。
- (5) 全試合について大会特別延長戦を適用する。
- (6) 組み合わせ



※ 開始式を、1～4のチームはJAバンク徳島スタジアムで、
5～8のチームはオロナミンC球場で11時30分より行う。

【大会特別規定】

【試合前】

- 1 監督に引率されたチームは、試合開始予定時刻1時間前までに到着し、その旨を大会本部に申し出る。試合予定時刻になってもチームが到着せず、それらについて何ら連絡がない場合には棄権とみなす。ただし、交通事情による到着遅延については、大会本部で協議し決定する。
- 2 第1試合のメンバー用紙交換および攻守決定は、試合開始予定時刻の40分前とする。第2試合以降は前試合の4回終了時とする。各チームの監督と主将は、所定のメンバー表を持って、本部1名と担当審判員とで打ち合わせをする。（必要部数は大会本部で決定する。）
- 3 ベンチは抽選番号の若い方を1塁側とする。
- 4 シートノックについては以下の通りする。
 - ① 試合当日の最初の試合のみとするが、球場が変わった場合はこの限りでない。
 - ② 時間は7分以内とする。
 - ③ 後攻のチームが先に行う。
 - ④ 監督・コーチ・登録選手の他に3名の補助員をつけて行うことができる。ただし、補助員はヘルメットを着用すること。
 - ⑤ ノッカーは選手と同一のユニフォーム・スパイクを着用する。
 - ⑥ 相手チームがシートノックをしている時はベンチからでない。但し、先発投手の投球練習場での投球練習は認める。
 - ⑦ 守備練習であるからマウンドでの投球練習は認めない。
- 5 バット・マスク・ヘルメット等の用具は、試合前に審判の確認に応じなければならない。

【試合中】

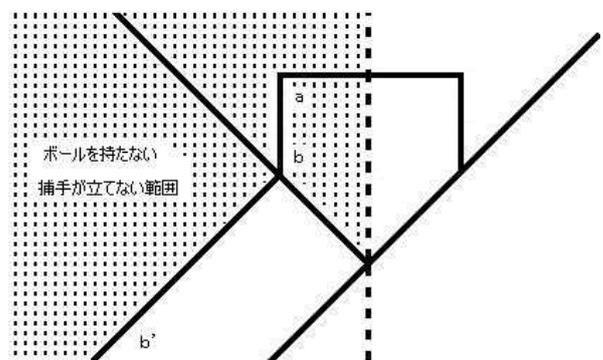
- 6 暗黒・降雨・雷などの悪天、日没のため試合続行ができなくなった場合は、原則として再試合にせず、翌日の第1試合に先立って特別継続試合（サスペンデッドゲーム）を行う。
- 7 攻守交代は全力疾走で行い、先頭打者とベースコーチは、ミーティングに参加せず、直ちに所定の位置につくこと。
- 8 攻守交代のとき、投手またはプレートに最も近い野手が、球を投手板近くに置くこと。
- 9 試合中の球場内では、次打者以外は素振りなどをしてはいけない。その際、投手の投球が始まったら、次打者席で低い姿勢で待つこと。
- 10 投手の準備投球は、初回と投手交代のときは7球以内とするが、2回以降は3球とする。（審判が状況を考慮する。）また、予備捕手は安全のため、マスクをかぶる。
- 11 メガホンの使用は、監督のみとする。
- 12 選手交代の申し出は、監督が行う。コーチは試合前のノックを行うとき以外は、ベンチから出ないものとする。

- 13 審判員に対して、規則適用上の疑義については、当事者と監督が直接、質問することができる。
- 14 走者のいるときに、投手が球を持たないで投手板のすぐそばに立ち、野手が隠し球の行為をしようとしたとき、明らかに相手チームが気づいている場合は即注意をし、球を投手に戻させる。
- 15 突発事故が起きた場合に、一時走者を代えたいときは球審に申し出て、審判団が必要と認めた場合は、これを許可する。臨時代走は、投手・捕手を除く打者前位の者とする。
- 16 試合進行上、打者席を外すことや、無用なタイムは慎み、サインは打者席から見るなどスピーディな試合進行を心掛ける。ボール回しは、試合の進行上禁止することがある。
- 17 本塁打を打った打者に握手を求めるために、グラウンドに出てはいけない。
- 18 危険防止のため、次のことを徹底する。
- (1) バットリング、鉄棒等の球場への持込を禁止する。
 - (2) 足を上げてのスライディングは禁止し、現実に妨害になった場合は、走者をアウトにする。
 - (3) 捕手のレガース・プロテクター・ヘルメット・スロートガードと、打者と走者の両耳付きヘルメットは必ず着用すること。また、リストバンド及びハイカットストッキングの使用を禁止する。
 - (4) 規則7・06 (a) 【付記】 (捕手のブロック) の適用について、中学校野球では『ボールを保持しているときしか塁線上に位置することはできない』こととする。

[規則適用上の解釈]

- ① 走塁妨害を適用するのは、あくまでも捕手のその行為がなければ当然本塁に到達できたと判断できる場合である。
- ② 捕手のその行為が走塁妨害にもかかわらず、瞬間的に、『アウト』のコールをした場合でも改めて「オブストラクション」の宣告をしない。
- ③ 走塁妨害適用外であってもそのような行為があった場合は、試合を停止したうえ、捕手に対して嚴重注意すること。
- ④ ボールを保持する前の位置は次の通りとする。
 - ア ホームベースの中央線より右側に立ちベースの左半分走者に見えるようにすること。
 - イ また、捕手がホームベースより後方に位置するときでも、ホームベースと3・本間のラインが重なる3塁よりの接点 (右図b-b'点) から前方に出てはいけない。
- ⑤ 捕球してからの動き

ボールを保持しているときは塁線上に移動してタグをしてもよい。



- 19 規則3・03原注〔前段〕「投手は、同一イニングで投手以外の守備位置についたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることもできないし、投手に戻ってから投手以外の守備位置に移ることもできない

い」は適用しない。

[規則適用上の解釈]

中学校野球では、登録人員の関連で本規則を適用しないとしたものである。審判員は、これを作戦上の目的等、本来の趣旨からはなれて利用されることのないように、留意しなければならない。

20 交代して一度退いた選手は、ウォーミングアップなどの相手のほか、ベースコーチ、伝令も許される。
(3・03注関連)

21 監督が投手のところに行く回数の制限

- ① 「投手のところに行く」とは、監督がタイムを取ってグラウンドに出て、投手または投手を含む野手が集まっている所で指示を与える状態を指す。投手の方からファールラインを超えて監督の指示を受けた場合も同じとする。
- ② 伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところに行かせた場合もあてはまる。
- ③ ボールデッド中で改めてタイムを取る必要がない状態の時も、同じ行為であればあてはまる。
- ④ 監督が、同一イニングに同一投手のところへ2度目に行った場合、投手は交代となる。但し、交代した投手が他の守備位置につくことは許される。
- ⑤ 監督は1イニングに同一投手であれば交代なしで1度行くことができる。ただし、試合進行に関わり、必要がないのにタイムを取ることは慎む。
- ⑥ 相手チームのタイム中に投手のところへ行くことは差し支えないが、プレイの再開を遅らせた場合は、投手のところへ行ったことと見なされる。

22 守備のタイムに関わる制限

- ① 捕手を含む内野手が投手のところへ行き守備のタイムを取る回数は、7イニングの試合にあっては3度以内とする。
- ② 野手（捕手も含む）が投手のところへ行った場合、そこへ監督が行けば、双方一度として数える。投手交代の場合はその回数に含まない。
- ③ ボールデッドで改めてタイムを取る必要がない状態の時も、同じ行為であれば回数に数える。
- ④ 延長戦（特別延長戦も含む）となった場合は、2イニングに1度とることができる。
- ⑤ 監督がタイムを取った場合は、選手の取った回数に含めない。
- ⑥ 集まれるのは投手と捕手を含めた内野手、伝令だけとする。
- ⑦ 試合進行に関わり、必要でないのにタイムをとることは慎む。

23 延長戦は9回までとし、それでも勝敗が決着しない場合は、次のような特別延長戦を行う。

〈特別延長戦〉

継続打順で、前回の最終打者を一塁走者とし、二塁、三塁の走者は順次前の打者とする。すなわち、無死満塁の状態にして一イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。勝敗が決しない場合は、さらに継続打順でこれを繰り返す。なお、通常の延長戦と同様に、規則によって認められる選手の交代は許される。

24 応援団は次の禁止事項を守ること。なお、これについては各チームの監督が責任を持って指導すること。

- ① 紙吹雪・テープ・個人名を書いたのぼり等を禁止する。
- ② 相手チームをやじったり、相手チームに不利を招いたりするような応援をしない。
- ③ 応援席周辺を散らかさない。ごみは持ち帰る。
- ④ 球場の設備を傷つけたり、ゲームを妨害したりするような応援はしない。
- ⑤ スタンドでの応援は、投手がセットポジションに入ったら、声のみの応援とし、太鼓、メガホン、ペットボトル等の全ての鳴り物の使用を中止する。また、相手投手の集中を途切れさせるような意図的な大きな声は発しない。また、ブラスバンドの演奏は試合前後、イニングの間に限る。

【試合後】

- 25 試合終了の挨拶は、ホームプレートをはさんですべて完了することとし、次の試合のために速やかにベンチをあけること。
- 26 各チームの監督は、球場を去る前（試合終了30分以内）に大会本部に連絡をし、次の日程などを確認する。

【その他】

- 27 コーチは平服（ワイシャツ・ネクタイまたは白いポロシャツおよび選手と同一の野球帽子）または、選手と同一のユニフォームとする。また、ノッカーを兼ねる場合には、選手と同一のユニフォーム・スパイクを着用し、背番号は付けない。ただし、コーチが女性の場合は考慮する。（サングラスは使用しない）
- 28 監督・コーチは、選手と同一のユニフォーム・スパイクを着用し、監督は背番号30番をつける。
- 29 コーチは、試合前のノック以外は、ベンチから出ないものとする。
- 30 選手のテーピングは、皮膚の色に近い色のものを用い、投手は投球に影響を与えるものは使用できない。また、リストガード、サポーター等は医療目的以外では使用を認めない。使用をする場合は、メンバー交換時に申し出ること。
- 31 イニング交代時などの予備捕手については、ヘルメット・マスクを着用する。また、いかなる時も投球練習を座って受けるときは、安全の為マスクを着用する。
- 32 選手の頭髪や身なりは中学生らしく、試合中はもちろんのこと、試合後においてもスポーツ選手らしく、マナーについては十分に考慮する。
- 33 天候等による大会実施の可否、試合の中断及び日程の変更は、大会本部で決定し、連絡する。
- 34 ベースコーチは、ヘルメットを着用する。
- 35 メンバー交換後から、試合開始前の両チームの整列までの間に、スターティングメンバーが体調不良やケガなどの不慮の事態が生じた場合、メンバー記載の控え選手を交代出場させることができる。その際は、該当チーム監督がベンチから出て審判に直接報告に行く。なお、先発出場を取り下げた選手は、試合復帰が可能な状態になれば試合に出場できる。